

○委員長（道畑 克雄）

- ・ 開会宣告
- ・ 議題の確認

1 水産振興について

○委員長（道畑 克雄）

- ・ 議題宣告
- ・ 本件は、先日6月30日の予算特別委員会経済建設分科会後、常任委員会の所管事務調査について、各委員に相談した際、阿部委員より、水産振興にかかわって、本委員会として調査したい旨の発言があった。各委員に持ち帰っていただき、ほかに調査したい案件の有無も含めて、検討いただいた上で、改めて協議することとしていた。本日の進め方だが、まず、各委員から本件以外の案件で提案があったら、発言いただき、その後、本件について協議後、改めて協議していきたいと思うので、よろしく願う。それでは、各委員にお聞きするが、本件以外で提言、提案はあるか。

○浜野 幸子委員

- ・ 水産ばかりではなく、農業の振興についても、一昨日だったと思うが、報道で農業法人が法人に加入したが、事業として難しくなっている。これは全国的なことではあるが、水産振興をいうのであれば、農業も含めて同じような考えを持つのも、一つの研究課題、調査課題になるのではないかと思う。

○委員長（道畑 克雄）

- ・ 今、浜野委員からあったが、皆さんの方から用意されてきた提案はないか。
(「なし」の声あり)

○委員長（道畑 克雄）

- ・ 浜野委員の件については、後ほど農業振興についてということで協議をしたい。

○浜野 幸子委員

- ・ 水産、農業という一括で考えを調査してほしい。

○委員長（道畑 克雄）

- ・ 次に、本件について阿部委員に前回の発言内容についての確認だが、調査の目的としては、「市町村合併後10年を経過し、その際の目的の一つに水産振興があったが、どこまで軌道に乗っているかあいまいであり、議会も理事者に求めるだけでなく、水産振興、一次産業の振興、地域の活性化ということに結びつけながら、問題について調査し、理事者に提言していく、あるいは市民に対して明らかにしていくべき」、調査の方法については「他都市の事例を参考にするとともに、函館市の水産業の現状と課題等をまとめ上げて、課題の解決にはどうすればよいかを調査したい」との内容でよろしいか。

○阿部 善一委員

- ・ はい。

○委員長（道畑 克雄）

- ・ 本件については、調査内容が広範多岐にわたると思われることから、調査期間などを考えると、正

副としては調査するとした場合に、調査項目を絞る必要があると考えます。改めて、提案いただいた阿部委員にお聞きするが、具体的に調査項目として絞り込んでいる部分が、今の段階であるか。

○阿部 善一委員

- 先ほどに補足するが、合併して10年たつが、人口減少率を考えた時に、旧4町村は非常に高齢化が進み人口減少率が高い。この間、後継者、後継者ということで、議会で議員が発言し、理事者も答弁はしてきているが、ただそれだけに終わっている。具体的な施策や対策が、何もやられていないに等しいくらいの今は低迷状態だ。このままでいくと、旧4町村はインフラ整備を含めて、あるいは、福祉のさまざまな面を考えた時に、行政コストが非常にかかってくる。それは間違いなく市内と比べたら、相当、行政コストがあらゆる面にかかってくると思う。それを何とか食いとめるためにも水産振興を何とかしながらカバーしていくということが、今、求められていると思うし、近年、いろいろ私も、議会で何回も質問したが、漁業資材が非常に高騰して、漁業収入が安定化せず、経費倒れになっている。先ほど言ったように、あとを継ぐ人がいないし、親も子供に継がせたくないという、今の漁業形態でいいのかどうなのかと、新たな時代に向かって、新たな漁業というのを模索できないのだろうか、ということも議会として提言できればいいなと思う。私は、ずっとこの間、3年、4年位前に近大マグロの近畿大学に行ってきた。ここは、近畿大学から補助金は一銭ももらわず、全部、自賄いでやっていて、129人を雇用し、安定供給をして漁業振興にもつながっている。それから北陸へ行くと、ウニの養殖を相当、手広く民間企業がやって、安定収入につながっていて、若い人たちもたくさんいる。そういうものを出していかなければならないという時に、今、函館市の行政区域内の漁業者の実態はどうなっているのかというのは、実はあまり知られていないし、地域によっても差がある。だからまず一つは、現状の実態というのが、どのような状況なのかを、きちんと確認しなければならないのではないか、ということと、漁業者あるいは漁業組合の人たちは将来について何を思っていて、行政や議会に対して何を望んでいるのだろうか、という実態調査が必要だろうし、函館市の将来の漁業は、どのような方向にあるべきなのかということを探り当てていき、将来的には、先ほど委員長が言ったと思うが平成29年に振興計画をつくるので、その中に提言できればいいなと思う。この前、議会で南茅部の遠山議員が、ノルウェーの漁業の実態を見学したらどうか、ということがあったが、あれは実は5年前に私が提案して西尾市長の時に予算もついたが、ところが漁業組合から反対があった。なぜかというとなルウェーは、個人の漁業者が一人もいない、二つの水産会社の全部社員で、そして、市場がなく、船でとったものは、洋上でインターネットで競りにかけ、そのまま工場に持っていくので中間の流通機構が全くない。それが当時の組合幹部の人たちは、よく理解できなくてやめた経緯がある。だが、私は、いろいろなものを果敢に見るなり聞くなりして、それを行政が受け入れる受け入れないは別として、議会が調査して提言行為をしていく、提言というのは、議会は調査委員会があるのでやらなければならないと思い、補足にはなるが水産振興を調査項目にすべきだということを提言した。

○委員長（道畑 克雄）

- 前回の発言について、補足も含めて発言いただいたが、今の水産振興の件について各委員から意見はあるか。

（「なし」の声あり）

○委員長（道畑 克雄）

- ・ 正副としては今回の提案だが、今、阿部委員から説明をいただいたとおり、非常にマクロな部分の話で、今後のあり方ということになると、時間、作業もかかると思っている。最終的には、平成29年度からの計画として予定されている水産振興計画が策定されるのを目掛けて、例えば、それまでの中で、水産の概要や漁業者の方たちからも話を聞くことも追求ということで、おいおいやっていって、委員会として提言するにあたって具体的に、どの部分について調査をするのかということも絞り込んでいかなければならないということを勘案しながら調査を行っていくというのも一つの方法だと思うので、もし今年度の27年度中でということであれば、時間とか、やらなければならないと思われる作業がボリュームがあり、期間がかかるとことを考えると、もし取り上げるとすれば平成29年度に目掛けて調査をしていく。仕方を含めて今後、検討していくというような取り扱いをしてみても、取り扱いのしかたも議論してみてもどうかというふうに思っている。端的にいうと、今、この場で、ここの部分を調査しましょうというところまで絞りきれないだろうと思うので、少し時間をかけて取り扱いの仕方を考えていくという扱いをしていって、おいおい具体化をさせていければというふうに思う。この案件については、そのように取り扱っていったほうがいいのかと思うが、皆さんから意見はあるか。

（「なし」の声あり）

○委員長（道畑 克雄）

- ・ 今回の調査事件とするためには、具体的なテーマを絞り込んでいかなければならないので、今、申し上げたように扱いの問題とかも含めて委員協議会を開きながら、たとえば水産概要で調査するだとか、広報広聴という意味合いも含めて漁業者の方とお話をする機会を設けていくだとか、というようなことを追求していってみるといった形で、進めていってみるといったような形で、整理をとりあえずしておきたいと思うが、よろしいか。

（「はい」の声あり）

○委員長（道畑 克雄）

- ・ もう一つ、今、浜野委員から農業の件を提言・提案いただいたが、この件について皆さんから意見や発言があるか。

○井田 範行委員

- ・ 今、浜野委員から農業振興ということで、私も農家の生まれで、使われていない土地がどんどんふえているとか、いろいろな課題があるということは、十分認識しているが、ただ漁業振興と非常に似ている部分があり、先ほど阿部委員もおっしゃったが、組織機構の改革的な話になっていく。先ほどのノルウェーの話もそうだが、非常に大きなものにぶつかる可能性が極めて大きいのかなと。知っている方も多いと思うが、函館でトウキでしたっけ、薬草ですね、あの辺も動いているということで、その辺の状況を見ながら、あと農業振興となると生産性を高めるとなると、やっぱり非常に大きなものにぶつかるのかなと、調査する前から否定的な声を出すのは、いかがかなとは思いますが、難しさがああるのかなと思っていて、漁業もそうだが、農協もそれぞれの団体との対応という部分で、結構ハードルは高いのかなというのが、私の率直な意見である。

○浜野 幸子委員

- ・ なぜ、私が調査事項にしたかというのと、今、合併して10年、業種としては、水産であろうと農業であろうと一次産業には変わりはない。地域的に、土地がいわゆる農地転用もできない、そういう場所がたくさんある中で、後継者もない。同じスケールは大きいですが、同じ調査するなら、その中のいわゆるドッキングする部分だけでも農業についても、やはり知って調査する必要があるかなという意見であって、それがどうしてもというのではなく、私の考えはやはり、東京のほう、石川、あっちの方へ行けば建物も建ちましたが、タイミングが悪く、ほとんど農業の状況はゼロという場所も、けっこうあるので、個人的な部分も入るかも知れませんが、その辺は精査して、意見として、私は、そういうことを含めて、もしできればという気持ちを提案しただけである。

○委員長（道畑 克雄）

- ・ ありがとうございます。阿部委員が言われたこと、浜野委員もそうですけど、調査事件とするかどうかの前に、たとえば関係する、私たちが扱っている所管の部分の団体の皆さんと実態を知ることによって広報広聴みたいな、そうした立場でお話し合いをするだとか聞くだとかということなんかも含めて、それは可能だと思うので、だから調査するといっても、何のどこをと絞っていかなければならない、そうでないと何を提言するかということにもなってくるので、そういった分の調査事件分は調査事件の分として別に、委員会としての広報広聴だといったことでもやれる余地はあるのかなと、そういった部分で漁業者や農業者の方のお話を聞くという部分はあるのかなと、そういったことも含めて、また皆さんと議論しながら追求して行って、もし、たとえば、そういった中で、今度、これを取り上げてみようだとか、少し、どういう扱いにするかは別にしても、もうちょっと調べてみて、何かしなければならぬのではないかとということになれば、そうしたことにつなげていけるということがあるのかなというふうに、受けとめさせていただきますので。皆さんの方から他に本件にかかわらないようであれば、あとは、今後、改めて具体的な調査の内容、事件の内容を定めて何を調査していくかというところは、決めていかなければならないということになるが、できたら、後日、正副で、また考えさせていただいて、皆さんの方に、今年度の扱いということで、これをどうでしょうかというようなものを提言をさせていただいて、また議論をいただいて決めていくという扱いに、今日のところは、させていただくというふうに思うがよろしいか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（道畑 克雄）

- ・ わかりました。異議ありませんので、そのようにさせていただきますけども、皆さんの方でも、たとえば再度、調査事件について、検討いただいて、もし、こういうものはどうだろうか、というものがあつたら、正副委員長でも結構ですし、事務局の方でも結構ですので、知らせていただければというふうに思うので、よろしく願います。皆さんの方から他にかかわって何か発言はあるか。よろしいか。

（「なし」の声あり）

○委員長（道畑 克雄）

- ・ なければ、本日はこれで散会をさせていただく。お疲れ様でした。ありがとうございました。

午前10時30分散会